

神奈川山梨教会連合会だより

かりん

教会長信行会に

参加して

連合会長 福田光一

『かりん』29号のご挨拶で申しましたように、立教一五〇年のお年柄に当たる本年は様々な行事が執り行われております。安政六年、神様から「世間になんぼうも難儀な氏子あり、取次ぎ助けてやってくれ」とのお頼みを受けられた教祖様は、農業を家族にまかせ、人の助かる御取次の御用に専念されることになりました。それ以後、歴代金光様はじめ、直信、先覚、先師の諸先生方は「人が助かりさえすれば、それで結構です」との信念に基づき、それぞれの時代社会にあって人が助かる御用にお取り組み下さり、多くの人々が助かり立ち行く大みかげを蒙って来ておりますことは、有り難いことでもあります。

このお年柄に当たり、こうした道の歩みとそのおかげの中に生かされている私ども信奉者は、一五〇年にわたる尊い御用に御礼申し上げると共に、人の助かりを願ひ通

された親神様の願いと教祖様の思し召し、すなわちご立教の精神を改めて頂き直し、「世界・人類の助かり」のお役に立ちたいと思ひます。さらに、本年度教団の活動方針に掲げられた「結界取次の充実と助かりの実現」に向けて、歴代金光様をはじめ先人諸先生のご信心と御用の内容を頂いて行くべく開催されました『教会長信行会』に参加させて頂きました。

教会長信行会は、五月二十六日の第一回から七月十六日に終了した第六回まで、教区別に二泊三日の日程で行われ、ごく少数のスーツ姿の先生も居ましたが、殆どの先生は黒い羽織り黒い袴の黒衣姿での参加でした。

ご祈念は本部会堂広前でしたが、講話、班別懇談(一部修徳殿)、宿泊は完成間もない「北ウイング」を使わせて頂きました。

第一日は、会堂広前でご祈念、教務総長お届け後、教主金光様のお言葉を賜り『やつなみホール』に移動後、教務総長より「この道における『助かり』の実現とここからの課題」との講話と質疑応答があり終了後、班別懇談①が行われた。

第二日は、教主金光様のお出ましをお迎えし、会堂広前でご祈念、神習後、教祖奥城ならびに歴代教主奥城でのご祈念があり、午前中は講師の講話と班別懇談②が行われ、午後は班別懇談③の後、会堂広前でご祈念、

金光様お退けお見送り後、自主信行または三代金光様のご祭主など映像鑑賞が行われた。

第三日は、第二日と同様、お出ましお迎え、広前ご祈念、奥城ご祈念があり、午前中に班別懇談④を行い、閉会式、閉会ご祈念、教務総長お届け、教主お言葉にて解散した。

四回の班別懇談では、①立教や一五〇年の歴史の意味を頂き、ここからの方向を求め、②講話や班別懇談資料から各自の信心、御用の在り方を求める。③班別②からの展開の手掛かりを得ていく。④信行会の感想、これからの御用への決意。

全国各地(第三回には海外の先生方も参加)で御用下さっている先生方のお話は、厳しくもあり、尊いものであり、また見習わせて頂くと思うものもあつた。

◎教師になった経緯も様々で、何かそこに神様の強いお働きを感じた。

◎教会家庭の幸せが大切、笑顔が絶えない教会に人の助かりがあるので：

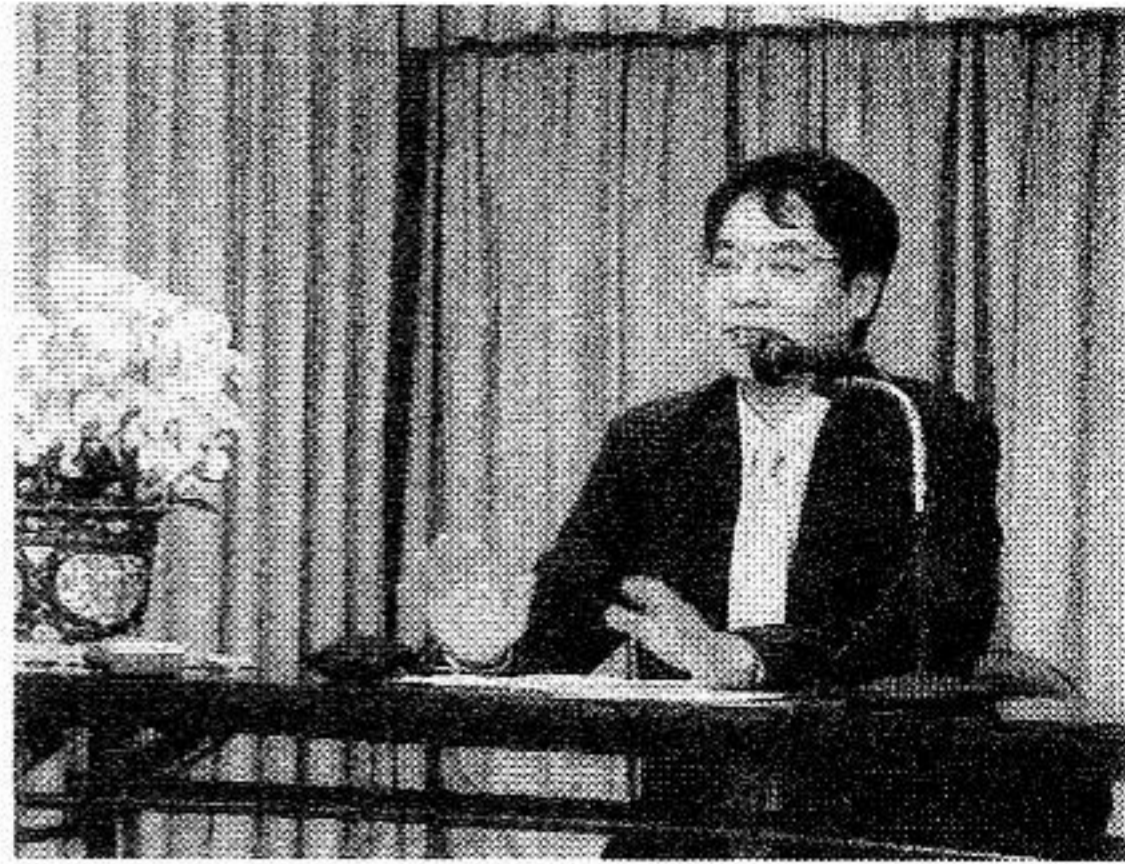
◎お参りが、あろうがあるまいが、朝五時から深夜〇時半まで玄関を開けている。

お出まし、お退け、ご祈念、講話はもとより、同室で寝食を共にした先生方からも、班別の先生方からも多くを学び、有意義で有り難い『教会長信行会』でありました。

『立教一五〇年信奉者研修会』が

開催されました

講師 河井 信吉 師



今年、立教一五〇年という記念すべきお年柄を迎えたことから、去る四月十一日(土)午後一時半から四時半まで、鶴見教会ホールを

会場に『立教一五〇年信奉者研修会』を開催、十二教会より五十六名が参集した。

開会にあたり、ご祈念の後、福田光一連合会長から「今年立教一五〇年というお年柄であり、この研修会をとおして信奉者一人ひとりが教祖様に始まるこのお道の信心の内容をしっかりと頂いて、ここからお役に立たせて頂きたい」と挨拶があった。

続いて、講師である河井信吉師(中野教会在籍教師)から『立教神伝を頂く』との講題のもと、一時間半にわたり講話を頂いた。左に講話の概略を記す。

今年に記念のお年柄を迎え、改めて『立

教神伝』について、今まで気がつかなかった深い意味合い、可能性、広がりといったものを理解させて頂くことが出来た。

『立教神伝』を頂くということは、教義解釈、教義的な見解を知ることではなく、『立教神伝』が私達に語りかけてくれているもの、頂かれた教祖様がどのような歩みを進められたのか、どのように人間の生きる世界が開かれて行ったのか、具体的な世界、実践的な世界に目を向けて行かなければいけない。

と、『立教神伝』に対する問題意識、頂く姿勢等について話をされ、続いて例話を

用いながらポイントを絞って話をされた。

*「その時死んだと思うて欲を放して、天地金乃神を助けてくれ」について。

*「死んだと思うて欲を放す」「神心となりて」について。

*「取次」「取次の働き」について。概略を記させて頂きましたが、講話をとおして、この記念の年に『立教神伝』をどう頂いて行けばよいのか、私達に多くの示唆を与えて下さいました。

なお、限られた紙面の関係から講話の内容を充分にお伝え出来ませんこと、講師の河井先生と皆様にお詫び致しますとともに、講演内容を網羅した冊子が刊行されますので、お買い求め下さいますようご案内致します。

(文責 南 清孝)

かりんの輪



江南水郷めぐり

藤沢教会 堀端 肇

昨年十月、中国の上海周辺の江南水郷めぐりツアーに一人で参加した。その初日、昼食に私は青島ビールを、隣の少し年配の方が紹興酒を注文。昼間から酒を注文したのは、恥ずかしながら我々ただ二人。私は当然の如く手を合わせて、「いただきます」と飲み始めた。

その日の夕食、入り口では先ほどの隣の方が私を待っているではないか。「一緒に食事しましょうよ」とのお誘い。隣り合わせに座り、二人とも紹興酒を注文し、いつもの如く手を合わせて頂きますと始めた。その方は私に「あなたは宗教をおもちですか?」と尋ねてきた。私は「金光教を信奉していますか?」と尋ねた。私は「金光教を信奉してはいますか?」と尋ねた。「あなたは何を食べていますか?」と聞き返すと、「あなたは食事の前に手を合わせられましたよね?」と尋ねた。金光教の教祖はなんとか文治さんとおっしゃいますよね?」とさらに尋ねられた。私が「ええ赤澤文治さんですよね」と答えると「そうでしたね。よくご存知ですね」と申し上げると、「ええ、しかし金光教は世界の宗教の中で屈指の名宗教ですね」とおっしゃられた。私が「そちら様は本教に関係がおありですか?」とお尋ね

七夕の平塚で女性のつどい

まさに、平塚七夕まつりの初日七月二日に、一年に一度の「女性のつどい」が開かれた。

梅雨の真最中とはいえ、朝のどしゃぶりの雨には、いささかどうなることかと心配したが、午前中の七夕まつり見学には十三名、午後からの研修会には三十一名の参加を得て、楽しい一日を過ごし親交を深めた。

この不況で七夕まつりは縮小されたとはいえ、街中が豪華な飾りで埋め尽くされ、全国から集まってきたという出店が立ち並び、いやがおうにも祭り気分が高まるという雰囲気であった。平日で真っ昼間、それに雨という状況だから人も少ないだろうという予想は外れ、既にかかりの人で賑わっていた。午後から夜にかけては、歩くのもままならないほどという。

私達は、奥川先生の解説付きで短時間に凝縮して見学させてもらえたので、何倍も楽しませてもらった。日本三大七夕まつりの一つであることを後で知った。まだの方は一見の



価値ありですぞ。

さて、午後からは平塚教会に会場を移し研修を行った。これまでにない大勢の参加で、お広前もぎっしりだったことに、まず感謝であった。今回は、長年幼児教育に関わってこられた、平塚教会の熊坂和枝さんのお話を伺わせてことができた。子育てのことは家庭にあり、しかも三歳までのことが一生の育ちに大きく関わっている。では、その三歳までの子育てはどうあれば良いかということについて、スウェーデンでは、おもちゃ一つにしても全て自分で選ばせ、自分で選んできたことについては、自分で責任を取ること三歳までに身に付かせる。

また、人間のあり方については、「かごに乗る人かつぐ人、そのまたわらじを作る人」のように、いろいろな人のお世話になっていることを知り、「乗せてもらう、かつかせてもらう、使ってもらおう」という感謝の気持ちや思いやりが大切と語られた。心を動かす物語とともに、有線放送を通じて三年間にわたって地域に発信されてきたことを私達にも語ってくださった。

参加された方々は、熊坂さんのお話や話し合いの中で、多くのヒントを得られたのではないだろうか。社会が刻々と変化する中で、私達はどうすれば良いのか、どう生きれば良いのかという課題も投げかけられたようにも思われた。

(吉岡 裕子)

すると、「実は…」と名刺を出された。拝見すると、某有名私立大学名誉教授・文理学科・専攻宗教学とあるではないか……。それから私達は話と酒ははずむが食事はそっちのけ。ホテルのスタッフに早くと催促される始末。その後ホテルのバーへ移動し宗教談義……

先生曰く、

「私はあらゆる宗教を研究していますが、その中で金光教の教えは素晴らしいが、少し元気がありませんね。何故ですかね？ダーウィンの進化論の種の起源にある通り生き残るのは力の強いもの・頭の良いものではなく、その時の環境の変化に順応・対応できるものが生き残るのです。素晴らしい最高の教えである金光教の根本土台にある教祖の教えは、いささかも変える必要はありませんが、少し教勢も含め、お考えになるべき時期に来ているのではありませんか？金光教は内から外を見る傾向が非常に強い。もっと世界・社会の視点に立ち、教祖の信仰内容を世代・考え方の異なる人たちに、あなたがた信奉者が元気を出して伝えるべく考えなければいけませんよ。金光教の教義は日本の宗教の誇りと思っております。是非、頑張って信心してくださいよ。」

毎昼夕の酒盛りで本教の素晴らしさを指摘され、改めて誇りに思い、元気をもらい、励まされ、更に様々な教えを受け、本教の信奉者として恥ずかしくない生活態度をせねばと反省させられ、考えさせられた非常に実りの多い六泊七日の短い旅行でした。

△お知らせ△

☆受褒者・新任教師のご紹介

本年、当連合会で四十年褒賞を受けられた方、新たに教師に任命された方をご紹介します。

○受褒者

須賀院明德先生 (武蔵小杉教会)

○新任教師

宮川 昌也先生 (小田原教会)

木本 雅史先生 (横須賀教会)

須賀院崇徳先生 (武蔵小杉教会)

皆様、おめでとございました。

☆親子のつどい

観音崎の自然に触れながら、

うどんをみんなで作っちゃおう!!

日時 九月十二日(土) 十時～十五時

(現地集合・解散)

会場 観音崎青少年の村

(京急浦賀駅から観音崎行バス

終点下車徒歩二分)

申し込み 八月末日迄に、子安教会に

詳しくは、教会に送付してあるチラシをご覧ください。

☆立教一五〇年「少年少女全国大会」

今年は「夜のつどい」を関東が担当します。参加者の皆さんと一緒に、体を動かすプログラムを考えています。

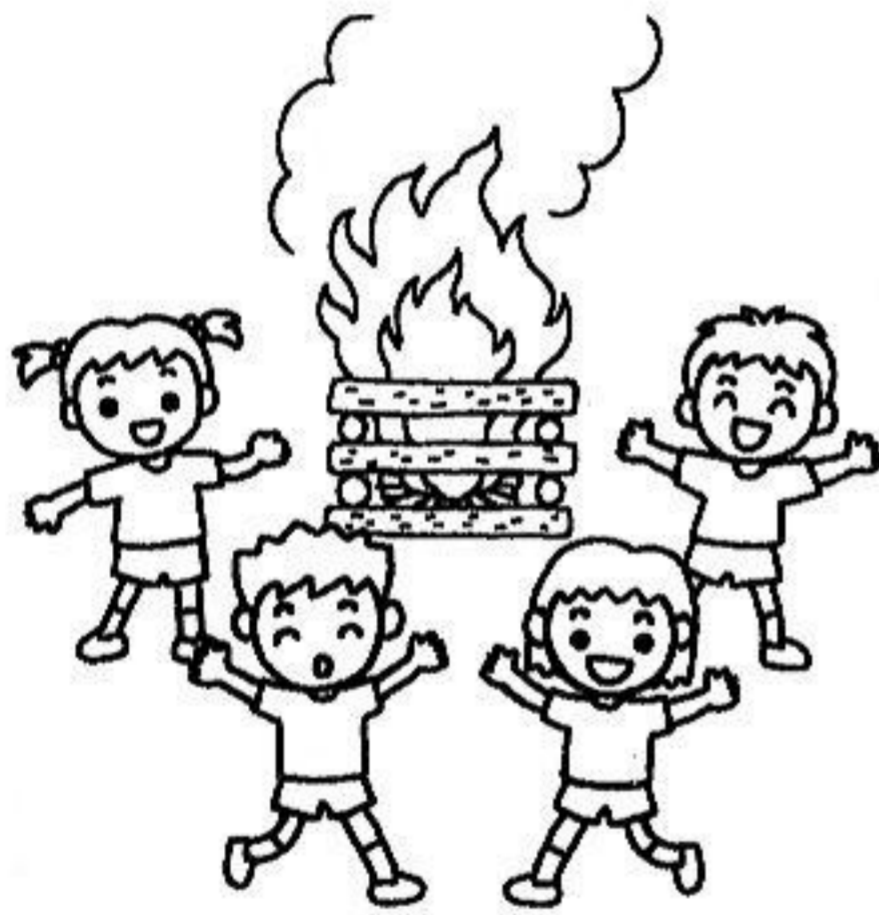
「つどい」の最後には、立教一五〇年を「150」の人文字で祝おうというプログラムもありますので、関東から大会に参加される皆さんも、どうぞお集りください。全国の「わかば」と一緒にお祝いしましょう。

日時 八月八日(土) 十九時三十分～二十時三十分

会場 本部会堂前境内

お問い合わせは、子安教会 村田まで

電話 (〇四五)四二二―一九二七



〈な・が・れ〉

『神様にさせていただく。』

母の願いが叶う』

鶴見教会 芳村 享 映

亡き母の願いが、舞台の娘たちに重なり思わず目頭が熱くなりました。

昨年の本部報徳祭の吉備舞奉納の時です。私たち夫婦に姉妹ができて、母は教会で吉備舞をさせたかったようです。小学校一年頃から言われるがまま始めましたが、何とも自然に彼女らの生活の一部になっていったのが有難いと思います。母の祈りや願い、神様のご意志の中で、させていたでいるように思えました。

本人たちの気持ちもありますが、全てにご都合を頂かねば、毎年の御用は出来ません。いつしか、母は御本部での御用の夢を見ていました。本部報徳祭のお話は、姉妹二人ではそろそろ舞うことが難しくなり始めた時、いろいろな必然と、偶然が重なり頂戴いたしました。望んで出来ることでもありません。まさに、不思議なご神縁を頂き、神様にさせていただいたとしか言えません。残念ながら母は他界し、御本部での晴れ姿は見られませんでした。願いは叶いました。願って成就することも素晴らしいことですが、自然に神様にさせていただくことのおかげを、こんな形で頂けたらと、亡き母と子どもたちに教えられました。

金光教神奈川山梨教会連合会

発行者 福田 光一

横浜市神奈川区青木町六一二十五

〒221-0057 金光教神奈川教会内